

令和5年6月7日（水）



先週6月1日（木）、歯科検診の日に合わせて県歯科衛生士会西置賜支部の歯科衛生士さんをお招きし、ブラッシング指導を行っていただきました。コロナ禍ということもあり、5年ぶりのご来校だったそうです。

歯科検診を最初に終えた1年生2人に対し、「どうして歯磨きをするのか」を尋ねると、1年生の二人は、「虫歯になるから」「食べ物の汚れで歯が茶色くなるから」としっかり答えていました。

次に、汚れをきれいに落とすポイントとして、①歯ブラシの選び方(自分の体に合うように、親指の幅の歯ブラシを選ぶ)、②歯ブラシは1カ月に1本取り換える(毛先がぼさぼさになるとばい菌が住みつく)、③下の右奥の歯の内側から1本1本順に磨く(1本につき20回~30回こする)、④磨き終わったら歯の表面がきれいになっているか確かめる(ペロでつるつるになっているか)、の4点を写真や絵を使って分かりやすく指導していただきました。

最後に、今朝の歯磨きが上手にできていたか、染め出し液を使って確かめ、磨き残した部分をもう一度磨き直しました。

毎日の歯磨きの大切さを改めて実感する機会となりました。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

令和5年6月15日(木)



昨日14日(水)に幼小懇談会があり、二人の1年生のために、お忙しい中、すすく子ども園と添川児童センター時代の担任の先生方が手ノ子小学校に来てくださいました。

まず、2校時目の国語の授業を参観していただきました。「くちばし」という説明文の学習でした。二人の1年生は、子ども園・児童センター時代の担任の先生を見つけて、「恥ずかしい」「緊張する」という言葉を発していましたが、長い文章をすらすらと大きい声で読むことができていました。また、問題と答えの文章を見つけて交代で読み合った後、クイズブックの2ページ目としてプリントに書いていました。

また、問題と答えの文章を見つけて交代で読み合った後、クイズブックの2ページ目としてプリントに書いていました。ひらがなも一通り学習し、「くちばしじまん」ということで、オウムの丸くて太いくちばしの特徴を自分の言葉で書くことができていました

情報交換の冒頭で、校長から、3年ぶりに新入生が入り、お手本にならなくてはという上学年としての意識付けになっていること、自分が頼りにされているという自己有用感を高めていること、特に一緒にクラスの4年生は、3年間ずっと一番下の立場だったのが、後輩ができたことで大きく成長するきっかけをいただいたことについて感謝の気持ちを述べました。

すすく子ども園と添川児童センターが、幼小中一貫教育を意識しながら、小1プロブレムを解消すべくアプローチカリキュラムをしっかりと実践してくださったおかげで、1・4年複式という難しい状況の中、二人の1年生は登校しぶりもなく伸び伸びと小学校生活を送ることができています。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

令和5年6月22日(木)



一昨日、第1回学校運営協議会を開催しました。

会に先立って、子どもたちの5校時目の学習の様子を参観していただきました。1年生は4校時授業だったため、学校支援員と帰りの準備をしているところを見ていただきました。4年生は、隣の空き教室で担任と道徳の授業をしているところを見ていただきました。5・6年生は、担任と町の英語教育コーディネーターとALTと英語の学習をしているところを見ていただきました。

はじめに、今年度から2年の任期でお務めいただく学校運営協議会委員の皆様、飯豊町教育委員会に代わって校長から委嘱状を手交させていただき、その後、会長・副会長を選出しました。

協議では、校長から学校経営方針及び重点について説明させていただき、承認していただきました。その際、令和8年度の義務教育学校開校に向けての準備が始まり、本校でも幼小中一貫教育の新たな取組を進めていることを説明しました。また、経営方針の一つである働き方改革について、山形県公立学校における働き方改革プランに沿って本校でも目標を設定し、具体的な取組を進めていることを説明しました。加えて、危機管理体制の充実について、大雨による災害発生時の下校体制について、町や民間企業と連携した取組を行っていることを説明しました。最後に、創立150周年記念事業について、「一般財団法人山形県教職員互助会公益事業」や「荘内銀行ふるさと創造基金」等を活用しながら進めていることを説明しました。

また、地域学校協働活動推進員からも、今年度の学校運営協議会の活動計画についての説明がありました。

最後に、地域学校協働活動統括コーディネーターから、地域学校協働活動の活性化と義務教育学校に向けての説明がありました。「学校運営協議会は、熟議で課題の確認に留まらず、確認事項の効率的な実施のためにまちづくりセンターと連携を強化し、地域の組織を活用していく必要がある」といったことや、「課題解決の実働部隊としての地域学校協働本部の立ち上げに向け、まちづくりセンターとの連携の中で人選を検討する必要がある」といった今年度の力点と、「地域から遠い最後に存在としない義務教育学校づくり」に向けた来年度以降の展望について説明を聞いた後、委員の皆様から忌憚のない様々な意見を頂戴しました。

令和5年6月29日(木)



今年度から、幼小中一貫教育推進のための具体的な取組を行っています。飯豊中学校のテスト週間に合わせて、先週22日(木)から昨日28日(水)までを、学習強調週間とし、GIGA端末の学習アプリケーション「すららドリル」を活用した家庭学習に取り組んできました。

本日は、本校4年生以上が、町内小学校に先駆けて試験運用し、飯豊町教育委員会の指導主事とICTコーディネーターに作成・配信していただいた「すららですらすら☆テスト(通称すらすらテスト)」を、算数の4・5月の単元で実施しました。

学習強調週間に合わせて、基本的な生活習慣の確立のためこれまでゴールデンウィーク明けや長期休業明けに行ってきた「はつらつがんばり週間」も行うことにしたため、22日(木)の全校集会で、学習のがんばりとして、「家に帰ったらすぐ取り組むこと」や「学年の目安の時間、宿題や自主学習、すららドリルに取り組むこと」、生活リズムのがんばりとして、「メディア時間を守ること」や「早寝・早起きをする」を指導しました。

また、教育委員会からは、「すららですらすら☆テスト 学習強調週間・攻略マニュアル」を配布していただきました。子どもたちは、このマニュアルに従って、まずは町教育委員会から配信された練習テストを宿題として解き、その結果を受けて自動復習機能により配信されたユニットを、1日1目標以上を目安に1週間取り組んできました。

子どもたちは、本日のテスト結果と学習強調週間の取組状況から、「超ナイスすらら賞(多くの問題を解いた人)」・「レベルアップ賞(成績がより多く向上した人)」・「スコアマスター賞(最高得点を取った人)」・「タイムアタック賞(テストを一番早く解いた人)」の賞状を教育委員会からいただくのを楽しみにしているようです。